

電友会四国連合会報

第 49 号

60. 1



目次

年頭にあたって.....	四国電気通信局長.....二
年頭のごあいさつ.....	電友会四国連合会長.....三
愛媛電友会総会.....三
扶養控除申告書.....四
共済会だより(二十九).....四
電信電話記念日の表彰.....五
新刊紹介.....五
電電OB秋季軟式庭球松山大会.....五
表紙のことは.....五
計報.....五
随筆.....六
猪谷 嘉夫 亀田 政雄 梶浦 照秀	
喜田 鎮雄 鶴本 豊勝 畑野 節夫	

年頭にあたって

四国電気通信局長

小 川 伸 夫



電友会の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

皆さまがたには、ますますご健甞で佳い新春をお迎え

のこととお慶び申し上げます。

電友会は、発足以来十七年目を迎え、年を重ねるごとにますます発展を続けられ、まことにご同慶にたえません。

旧年中は公社事業につきまして、いろいろの機会を通じて格別のご協力ご支援を賜わり、心から感謝申し上げます。特に各種商品の販売につきましては、お客さまをご紹介いただいたり、情報を提供していただいたり大変ありがたうございました。

さて、電電の改革関連法案も国会を通過し、公社はいよいよ四月一日から「日本電信電話株式会社」として新しく誕生し、これによって電気通信事業は新しい時代の幕開けを迎え、まさに画期的な第一歩を踏み出すこととなりました。

我々は三十余年間続いた公社という形態から抜け出して一般企業並みの経営形態に移ると同時に、これまで法律で守られてきた独占的運営から競争の場に立つこととなるわけ

あります。

事業は競争の場に立てば立つほど、地域社会との結びつき、地域性ということが重視されます。これまで公社は電話を中心とする通信設備を急速かつ安定した状態で構築するため、仕様・規格・工法・価格・サービス等を全国一律を原則として進めてきました。これは通信設備を今日のような状態に築き上げるには大変効果がありました。しかし、現在には多様化に対応する時代です。街の店の商品でもサービスでもいかにお客さまの意向に合ったものを提供するかに勝負をかけております。電気通信サービスも、創意と工夫をこらして地域性を最大限取り入れることによって、地域に合ったサービスの提供が今後ますます重要になると考えております。

高度情報社会という新しい時代を迎えた今日、より豊かで効率的な社会を実現するため、社会基盤としての電気通信の一層の高度化が要求されております。公社では、このような社会的要請にこたえるものとして、INS（高度情報通信システム）の構築に取り組んでおります。私どもの今後の大きな目標は、INSを、お客さまが利用しやすいシステムとして早期に実現することでありま

す。四国におきましても昨年六月、松山―高松間光ファイバケーブルの敷設、松山電話局におけるデジタル交換機の設置工事を完成させ、本州と結んだデジタル通信網の運用を開始し、INS時代への第一歩をのりしました。現在、昭和六二年度末までに県庁所在地を結ぶデジタル通信網を完成させることを目指し、管内各地において光ファイバケー

ルの建設など、INSの構築に最大限の努力を傾注しているところであります。

また、四国の各地では情報の高度化によって社会生活や地域の活性化・発展を促すための地域的対応が盛んに行われようとしております。例えば行政レベルで進んでいるテレトピア構想、ニューメディア・コミュニケーション構想等もまさに地域指向のプロジェクトです。私どもはこれらの動きに全面的に協力をしようとしております。

ところで昨年は、中距離通話料金の値下げ、ファクシミリ通信網の拡大、自動車電話、コムワード等の新規商品の発販、衛星通信車載局の配備などお客さまの要望にこたえてまいりました。今後も経営の効率化や業務の抜本的見直しを進め、「新生電電」として、今まで培ってきたお客さまの信頼を損うことなく、さらにサービスの向上をはかり、飛躍を行って、お客さまのニーズにきめ細かくこたえていく事業活動を積極的に進めてまいります。

電気通信事業は本電話機の開放をはじめ、激しい競争の時代を迎えますが、われわれの事業は進展する情報時代のなかであって、無限の可能性をもちますし、可能性への挑戦によって輝かしい未来を築いていくことができることを確信しております。

電気通信事業を愛され、深い関心とご理解をいただいている皆さまは、我々の先輩であり、かつまた、お客さまであります。皆さまのアドバイスは大変貴重なものになります。どうか皆さまがたには、ぜひとも地域社会とわが社の接点として、ご支援願うとともに、これまでに倍するご指導、ご鞭撻を賜わりま

すようお願い申し上げます。
 終わりにりましたが、ますますのご健康
 とご多幸並びに電友会のご繁栄を心からお祈
 り申しあげ、私の年頭に当たってのごあいさ
 つといたします。

年頭のごあいさつ

電友会四国連合会

会長 泉 節太郎



明けまして、お
 めでとうございま
 す。

元気でよい年をお
 迎えてございま
 しょうか。

さて今年、明治の創業以来、永年にわた
 って国営または公営の事業として、発展して
 まいりました電信電話事業が、四月一日を期
 して民営に移行するというものであります。
 これは、この事業にとっては、一大転換だ
 と言わざるを得ません。
 さきには国鉄の分割民営が決まり、今その
 方向に向って、具体的な計画が進められてい
 る筈であります。そこへまた、電電公社の
 民営化であります。

説をなす人は言っております。「国鉄は大
 赤字だから、民営も止むを得ないかも知れな
 いが、黒字経営の電電を、何故民営にしなけ
 ればならないのか」と。
 これに対し、「電電はなるほど赤字である。

しかし電電も今が頂上だ。これからだんだん
 下り坂になる。今手を打たねば、やがて国鉄
 の二の舞を演ずることになる」と、という人も
 あります。そして後者の説が国民与論となっ
 て、日本電信電話株式会社法案の国会上程と
 なったものと思われまふ。

電電公社は、昭和二十七年の公社発足以来、
 第六次にわたる長期計画の実施により、永年
 にわたる電話の積滞を解消し、また全国自動
 即時通話化も実現いたしました。そしてその
 事業収入は大きく増加し、経営は順調な道を
 辿っております。

しかし説をなす者は申します。「なるほど
 電電は今順調だ。だが、今が頂上だ。積滞
 解消とか、全国自動即時通話化といった、過
 去の大きな計画に代わるものが今はない。従っ
 て、現在以上甚だしく収入を増加する見通し
 はない。それに最近の傾向は、収入の増加以
 上に支出が増加しつつある。かくて年々収
 益と支出の幅は縮少し、やがて支出が収入を
 超えていく。そして今から十年十五年さき
 に、今の国鉄と同じ状況に達するのは眼に見
 えている。そこでこれを防止するためには、
 事業を民営とし、競争原理を採り入れて、事
 業の活性化をはかる以外に道はない」と。
 今般の民営化は、大体以上の考えが骨子に
 なっているものと思われまふ。

ところで、電電事業が株式会社となること
 は、他の民間企業と同じレベルにまで降りて
 来ることを意味します。そして競争原理を導
 入しての事業の活性化ということも、詮じつ
 めれば職員個人個人が、他の企業職員との競
 争に打ち克つことによって、はじめてもたら

されるものにほかなりません。それは電電と
 いう会社もその職員も、これから茨の道に踏
 み入って、苦勞しなければならぬことを意
 味します。

そこで永年公社に職を奉じて来たわれわれ
 電電OBは、茨の道を辿ろうとする会社や職
 員に対し、自己のできる方法で、一臂の力を
 かすことを考えるべき時ではないかと思いま
 す。

愛媛電友会総会

愛媛電友会第二三回総会は、小雨の年にふ
 さわしく、こよなき快晴に恵まれた一月八
 日、松山郵便貯金会館に約三八〇名が出席し
 て盛大に開かれた。

午前九時頃から、白いものや皺はふえても、
 健康そのものの顔が続々と数を増し、再会を
 喜ぶ語らいの輪が、広いロビーに広がる。

午前一〇時開会、会長あいさつの後、来賓
 の羽藤榮市先生、藤井愛媛通信部長、江川松
 山電話局長から祝辞をいただき、殊に、通信
 部長、電話局長の二人からは、公社の民営
 化を控え、民間企業との競争体制や、公社商
 品が民間商品にとって代わられつつある厳し
 い現状説明と、OBへの協力依頼が行われた。
 物故会員への黙禱、新会員の紹介、五九年
 度会務報告・会計報告の承認、六〇年度事業
 計画案・予算案の可決、西本電気通信共済会
 四国支部長の顧問推挙、新役員選出など、議
 事はスムーズに進み、正午すぎ、滞りなく総
 会の幕を閉じた。

ひきつづき行われた昼食会は、粗酒粗肴ながら、呑むほどに酔うほどに、さすがの大会場も談笑の埒塙と化した。つきぬ名残りを惜しみつつ、来年の再会を約して、午後二時散会した。(高市記)

扶養控除等申告書

年金を主たる収入としている方は、扶養控除対象者の有無、年齢、にかかわらず、申告書を四国電気通信局職員部厚生課共済係へ提出して下さい。

提出期日は一月十日です

申告書余白には、年金証書記号番号と、自宅の電話番号をお忘れなく記入して下さい。また、確定申告の期間は、二月十六日から三月十五日までです。該当する方は最寄りの税務署に申告を行なって下さい。

共済会だより (二十九)

**電気通信共済会四国支部
福祉相談所**

○電電OB大学の学習状況

愛媛地区

○九月十四日 「鉄剣の銘の発見と古代史との関係について」

場 所 番町公民館

講 師 松山商大教授 高市純徳先生

出席者 六十名

○十月十二日 「マスコミ雑感」

場 所 番町公民館

講 師 重信町文化財専門委員 和田重作先生

出席者 五十八名

○十一月九日 「庭園と美術鑑賞」

場 所 丸亀市万象園美術館

出席者 五十八名

香川地区

○九月二十六日 「讃岐の仏とその心」

場 所 高松電信電話会館

講 師 香川県振興財団事務局長 上原明生先生

出席者 三十六名

○十月四日 「園芸講座」

場 所 志度町盆栽センター外

講 師 香川国風小品盆栽会長 中村芳男先生

○囲碁大会

香川地区

○九月二十九日 塩江町

参加者 二十四名

優勝 軒原 健治氏

徳島地区

○九月八日 徳島電信電話会館

参加者 四十名

優勝

A級 喜田 有二氏

B級 川見 進氏

C級 春山 兆氏

D級 住岡 二郎氏

○永年の点訳奉仕に対して県知事表彰

松山市にお住いの会員、筒井武徳氏は、昭和四十八年以来、目の不自由な方々のために、これまで二五〇冊、約三〇、〇〇〇頁に及ぶ

図書を県点字図書館(県盲人福祉センター)に点訳奉仕され、また県点訳奉仕団の団長として奉仕活動が続けられており、この業績に對して、さる一〇月五日愛媛県社会福祉大会において愛媛県知事の表彰をうけられました。(福祉相談所)

表彰状

筒井武徳殿

あなたが多年にわたり社会奉仕活動に精励し、地域福祉の増進に寄りましたその功績はもとより顕著でありますよって第三回愛媛県社会福祉大会に於て、これを表彰します

昭和五十九年十月五日

愛媛県 白石春樹

○点訳奉仕に対し感謝状

松山市ご在住の上田昇氏は、かねてから点訳奉仕をされ、目の不自由な方々から大変よろこばれておりましたが、第三十二回点字文化祭にあたり、「点字奉仕を通じて、盲人の文化向上に貢献された。」

として、財団法人、愛媛県盲人協会から、記念品と感謝状が贈られました。

不幸な方々に対し、黙々とボランティア活動を続けておられるお人柄が、しのばれます。

電信電話記念日の表彰

昭和五九年度の第三五回電信電話記念日に、次の方々に感謝状が贈られました。

おめでとうございます。

四国電気通信局長表彰

(長年にわたり電気通信事業発展に尽力)

堀内善一殿 (松山)

渡部貞好殿 (松山)

内田春雄殿 (鳴門)

渡辺カッ殿 (丸亀)

松山電話局長表彰

(公社商品販売に積極的に尽力)

高市沖見殿 (松山)

◎新刊紹介

書名 「電信電話と共に」下巻三八二頁

著者 泉節太郎

発行所 古川書房

東京都大田区上池台四ノ二九ノ三

定価 一八〇〇円

内容概略

通信省、電気通信省、電電公社の三時代を通じ、電信電話事業関係一筋に生きた著者が、自己を語り事業を語る、ユニークな自伝的電信電話事業史

主要内容 憲法違反容疑の電信法
団体交渉事始め

臨時作業員に関する調停問題

新しい監査の在り方
チリ地震四国へも
電電田舎風景
わたしの人づくり
わたしの労務対策
人間関係
カード方式導入の効果

本書は著者の自費出版であるので、次へ郵便振替により直接申込まれた方へは、郵送料は著者負担する由

付記

松山市鷹子町九九八

申込先

泉節太郎

〒七九〇

郵便振替口座 徳島九一〇四一七

電話〇八九九一七五―〇一五五

電電OB秋季軟式庭球松山大会

昭和五十九年度最後を飾る秋季大会を紅葉も一段と美しい堀之内市営コートにおいて十一月十七日十数名が参加して和やかに試合が行われた。

試合結果は次のとおり。

- 優勝 山崎盛久 吉村英雄組 四勝一敗
 - 二位 三好淳子 玉木昇組 四勝一敗
 - 三位 福山岩雄 内藤福子組 三勝二敗
 - 四位 織田鶴一 田内長兵衛組 二勝三敗
 - 五位 松垣博 磯山政照組 一勝四敗
 - 六位 小松重幸 木村利一組 一勝四敗
- 同率の場合は得失点差による。

試合終了後懇親会を開き古稀にあたる二宮正己、溝田実両氏に記念品を贈ることとし散会

した。
なお往年テニスで名声をさせた溝田義徳氏が去る十一月二十一日逝去されました。衷心よりお悔みする次第です。(木村記)

丑年

莊野丹秀 (内海)

電友会会報の表紙絵を描きながら十二年前を想い出す。

総裁は米沢さん。四国電気通信局長は鈴木さんだったと思う。

時はうつり、迎える年は公社民営化のあけぼの。

訃報

次の方々が逝去されました。謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈り致します。

氏名	死亡日	行年	所属
菅 経之殿	59・9・1	六二	伯方
真鍋要三郎殿	59・10・3	八二	多度津
小島 好喜殿	59・10・14	八八	高知
西川 一男殿	59・10・22	七七	高松
矢野 春雄殿	59・10・27	六〇	松山
高橋 守殿	59・10・28	五七	松山
末沢 繁男殿	59・11・3	五八	坂出
松村 正一殿	59・11・11	六二	松山
矢野 和江殿	59・12・12	六八	宇和島

隨

筆



晩秋の中国路

猪谷嘉夫(高松)

はじめに 客年十月下旬に中国を旅行してきたが、中国は国土は広く国情も多少異なるので、参考にまで気付いた点二・三について触れておく。旅行時期は春と秋がよい。然し春先には北部地方では黄砂現象があり、甚しいときはバスも止まるらしいので行先きによつては春でもこの時期を避けた方がよい。

中国にもソ連のインツーリストに似た中国国際旅行社があつて、外人観光客の世話をしておるが、先方の都合で我々の日程を勝手に変更することがよくある。私等のときも大きく変更され、北京の目玉観光地である旧紫金城と明の十三陵は行かず仕舞になつた。

通貨 中国での外貨統制は相当厳しい。外人は外貨兌換券を使用せねばならない。当時の相場は一元が約百円。兌換券は免税店は勿論一般商店でも自由に使えるが、釣銭にもつた人民券は一般商店でしか通用せず、若し残金があつても日本円には両替してくれない。従つて一般商店での兌換券使用は釣銭が少ないように心がけ、残れば何でも買つて費消する。物価は中国産のものは相当低廉。食事は三食とも同じ献立の中華料理だが、

日本の中華料理とは味付けが違う。ホテルによつて多少献立も異なるが大同小異で倦々する。毎回粥と饅頭がでるが、粥は水分が多く塩味は全然ない。饅頭も味付けはなく偶に餡か豚肉入りのものが出る。漬物類は一切ない。こんな有様だから梅干か海苔またはパック味噌汁を携行した方がよい。

宿願のパプア、ニューギニアへ

亀田政雄(松山)

軽快なリズムで飛行中の機内で突如「セピックだっ」という戦友の声、一斉に見おろすとまぎれもなく「セピック河」だ。折からの夕陽を受けた河面が、黒ずんだ山峽に幾重にも囲まれて大きくくねりながら長蛇の如く横たわっている。この河は巾が約二軒あり、時折大木を根をつけたまま、或いは草山の大きな塊を濁流と共に流して、転進作戦でどうしても越さねばならない我々の行く手を遮り、何百いや何千もの戦友を呑みこんだ忘れられない魔の河である。

固唾をのんで河を見つめることしばし、間もなく機は第一の目的地ウエワク空港に着陸した。

夢で終らしたくはない。

いやなんとしても実現したい。

「戦うに武器なく、喰うに食なく、マラリアに斃れ、悪戦苦闘と栄養失調の末「米の飯がたべたい」と言いつつ英霊と化した幾多の戦友に、その地を訪ねて語りかけ霊をとむらい、また、食糧の全く無い我々を助けてくれた現地部落を訪れて、持てる限りの贈り物を

持参し心からお礼を言いたい。」

この四十年來の念願が、夢ではなく、現実となつて今このウエワクの地を踏みしめることができたのである。

片道三十時間

東京↓香港↓ポートモレスビー↓ウエワク、この便は週二回。連絡が悪いため三十時間を要したが、実飛行は十三時間四十五分である。

慰霊巡拝

パプアニューギニアで散華した英霊は約十三万(生存帰還一万名)、四十年という歳月が経ちながら、政府関係遺骨採集は僅かに三回行われ、約一万の遺骨が収集されたのみである。私達は日程と行動の許される限り各地を巡り、その地域に眠る戦友に、内地から持参した米、酒を供えた。現地人の協力を得て慰霊祭を五ヶ所で行い、その他六ヶ所で慰霊の祈りを捧げた。

現地部落「ニミンガイ」へ

ニミンガイ部落民は終戦を迎えるまでの九ヶ月間、食糧皆無の私達に食べものを提供してくれた。そのお蔭で生きながらえることができた大恩ある二十数戸の部落である。私は同行した戦友二人と共に部落を訪ねようと決意した。数年前に造られたという自動車道路の終点までにはいると、ニミンガイ酋長未亡人等十数名が出迎えてくれ、温かい歓迎を受けてそれからの山道を辿った。折からのスコールにジャングル内は水浸しになり、人一人通れるだけのジャングル径は起伏が激しく、どこを歩いても滑りそして転ぶ。ボーイやメリー達はここを通れ、そこは駄目だと手をさしのべて庇ってくれる。

体力も限界と思われる難渋四時間の末、やっと目指す部落に辿りつくと、日の丸とニューギニア国の小旗を打ち振って部落の人々が迎えてくれた。持参した贈り物に狂喜の目が集中し、大いに満足してくれたようだ。

夕食は部落民が一番喜ぶワンタイムカイカイ（一緒に食事をする）である。しばらくするとフンドシ一つの老人が「ミイカメダ、セヤマサーベ」（私は亀田、背山を知っている）つづいて一人また一人カメダ、カメダを連発し子供のようにすり寄ってきて手を握って離さない。またヤング達は「パパ、ママから戦争のこと、カメダ、セヤマのことよく聞かされた」と言い、ファイアを囲み夜の更けるのを忘れて語り合った。

大きな迷惑をかけたうえ、戦争に負け、何らの償いもしていない我々に対し、酋長以下部落をあげての歓迎をどのように受けとめればよいのだろうか。戦争中日本人とカナカ族との間に培われた心と心の絆が今もお生き続けているのであろうか。ツーンと強く胸を打ちこみあげてくる感激をどうしようもなかった。

パパア、ニューギニアとは五万年もの昔アジアから移ってきた人類といわれ、パパア族とカナカ族からなり、人口三百万人（愛媛県の約二倍）、面積四六万km²（日本の一・三倍）グリーンランドに次ぐ世界第二の大島である。

第二次世界大戦中日本軍はラバウルを占領し、南太平洋進攻の基地として戦域を展開したが、昭和十九年初め頃から弾薬を始め物資の補給が途絶えたため、転進作戦命令が発せ

られ、山岳地帯に入り遂に終戦を迎えたのであった。日本政府はパピアニューギニア国独立と同時に大使館を置き、経済界も大きな関心をもって臨んでおり、また同国も日本に寄せる期待と信頼は大きく、極めて親日的であるから今後両国間の関係はますます緊密となる。

ちなみに主な都市を中心に走っている自動車は殆んどが日本製で、日本経済の力強さを見た思いであった。

気候は常夏で平均三十度といわれるが、今回の渡島では最高五十二度を記録した。

産業はコブラ、コーヒー豆、銅鉄石、ゴム、紅茶、彫刻。交通機関は飛行機、自家用車。

国民性は見知らぬ人に役立つことをとても光栄に思う人種といわれ、のどかで底抜けに明るく親切である。また神を信奉し、呪を尊ぶことは、まさに神がかりである。

おわりに

パパア、ニューギニアは、ゆっくりと時のめぐる島といわれ、森も空も海も本来あるがままの姿で原始社会が存在している。よって「地上最後の秘境」といわれるのであろう。

従って政府の観光開発は慎重に管理され、たくさん外国旅行者が一举に訪れることによつて、この国の伝統文化が破壊されないよう配慮されているという。今回山入りしたニンミンガイ部落は、自動車で僅か四十二軒、それから徒歩で四時間の山頂であったが、四十年前と殆ど変わりがなかった。

パパア、ニューギニアに眠る十三万の英霊に、静かで美しく、平和をとりもどしたこの秘境の島で、安らかに眠り給えと心から祈っ

て、島を離れた。

ク ラ ス 会

梶 浦 照 秀（徳島）

県庁、貯金局、労働基準局等それぞれに勤めていた友人もお互いに定年退職を迎える年になり、二年ごとに集まるということを始めたクラス会を新友会と名づけた。

母校新町小学校は徳島市眉山の麓のメインストリートにあつて、同級生は殆んど商家の子息で、ガソリンスタンド、喫茶店、印刷業、医師の四人だけが現在も営業を続けており、ほかの友人は年金暮らしの生活に変わってしまい商家の暖簾を守ることの難しさと、時代の流れを痛感させられる。

今年で五回目の新友会を迎えたが、この間に三人が他界して十九名になり、次第に少なくなっていく。

年とともに会でのお互いの酒量もぐんと減り、子供の頃のあれこれ、町の移り変りの模様など昔ばなしばかりで一向に歌の一つも出ない。

今回はY君のことが話題の中心になった。年の瀬もおし迫った昭和十九年十二月二十七日、私は召集されて下関―釜山―京城―天津を経由して南京に着いた。驚いたことにとこから集められたのか何万人という数の集結であった。兵器、被服、食糧を渡されたが、食糧受領箇所思いもかけずY君に会った。こんな所で会おうとは偶然となつかしさが一杯であったが余り話する間もなく、隊が編成され移動したので、終に彼とは逢う機会

もなくこれが最後となった。

徳島は空襲で廃墟となり、終戦を迎えた。

今回、五回目の新友会の席で会員の岩瀬医師から意外な彼の消息を知った。

両親、妻子は空襲で溝の中で一家焼死した。彼は復員後駅前前の闇市で商売らしいことをしていた様子であったが、何が原因でそうなったか定かでないが、市立の精神病院で十数年の長い間自分の運命とたたかいたながら、見送る人もなく淋しい一生を閉じた。と……戦争は数多くのいるの悲劇を生んだ。

人は最後は孤独で死んでいく。しかしY君の死は余りにも淋しく悲しい。

少年の日を共に過ごした友が、それぞれ違った道歩んで半世紀を生き、今お互いに終着駅に一步一步近づきつつあるが、この十九人のクラス会を大切に守っていく。

松山ゆかりの漱石と「文質彬々」

喜 田 鎮 雄 (高松)

新札がでてはや二か月、はじめのころいろいろと話題がふりまかれたものだった。

その新札の中に夏目漱石が登場している。

漱石と松山とのゆかりは、漱石の肖像画のある新千円札の三号券が、道後公園にある市立子規記念博物館で、日銀から松山市長へ贈呈されたということからわかるけれど、小説「坊ちゃん」があまりにも有名である。

電電公社にとっても漱石とのかかわりは、漱石が明治二十八年四月、東京から教師として赴任してきた松山中学校、その跡地が現在の四国通信局の場所だということくらいは、

よく知られているところであるが、かつての中学校の校庭にそびえていたという、ユウカリの樹が藤栄造元副局長の寄贈によって、通信局の入口に植えられ、その若木が今では道行く人の目をそばだたせているほど大きく成長している。かたわらには、漱石が在任一年にして明治二十九年四月に、三津浜から熊本五高へ赴任のとき、見送りにきていた宮本より江?に与えた句といわれる「わかるるや一鳥啼いて雲に入る」の石碑が立っている。

なんにもまして、一番関心事なのは、かつて通信局長室に漱石の扁額が掲げられていたということであった。直筆のその書「文質彬々」である。書のことはよくわからないが、のびのびと自由潤達に書かれている印象だった。当時、その「書」をかいま眺めては何と読むんだらうか、一体どういう意味なのかといふがかったものだが、もとより浅学の身、知るよしもなくついそのままになっていた。

近年、ある会合で通信局に伺ったとき、たしか局長室にも会議室にも掲出されていないように思われ、その扁額の所在がちよっと心のすみに残っていた。

その後、やっと「文質彬々」とは、どういうことなのか、調べてみたことがある。論語の雍也編に「子曰わく、質、文に勝てば則ち野。文、質に勝てば則ち史。文質彬々として然る後に君子なり」とある。

その意は、形と中味がよく調和がとれていること、これがほんとの文化だと、立派な人間はこうあるべきだということだろう。

この書がいつどこで、どういう心境で書かれたものか詳かでないが、公社がある人を介

して譲り受けた昭和三十四年当時の松山図書館長の鑑定では、明治二十九年ごろに揮毫されたものらしいという。そうだとすると、漱石が三十才のとき、熊本へ赴任する同年四月十日以前に書かれたものといえる。

漱石の漢籍の素養はつとに少年時代に培われたものといわれている。年譜をみると漢字で身を立てようと、わざわざ東京府中から、二松学舎に転校したということからも知られるし、後年、日記に七言絶句などの漢詩がしばしば書かれていることからもうかがわれる。

ちなみに「文質彬々」は市河米庵の墨場必携にも出ている。いまこの「文質彬々」の真筆は子規記念館に展示されているとのこととその模写の扁額が現在、通信局内幹部会議室に、掲出してあるという。

この「文質彬々」のことばのもつ意味は、実に味わい深いものがある。人間誰しもついで体裁をつくり中味がおろそかになり勝ちなもの、お多分に洩れず私もそのうちのひとりだなど、つねづね考えているだけに、新しい年にあたって、ことしは丑年「モウ」いちど「ギュー」とその真髓にふれ、少しでも人生を有意義なものにしたいと思う。

ボケ恐怖症

鶴 本 豊 勝 (松山)

高令者学級講座のある先生が皆さん心当りはありませんかと次のような事を云われまして。

A ボケない人

- 一、本、新聞などをよく読む人
 - 二、物忘れを気にしない人
 - 三、毎日日記をつける人
 - 四、お互いによく話をする人
 - 五、人の世話をよくする人
 - 六、物事に感動する人
 - 七、いくつになっても張合いと生き甲斐を感ずる人
- B
- ボケになるような人
 - 一、頑固で人の云うことを聞かない人
 - 二、すぐ腹を立てる人
 - 三、部屋のゴミを拾ったり廊下を拭きたがる人
 - 四、妻を怒り出す人
 - 五、仕事一途で趣味のない人
 - 六、友達のいない人
 - 七、人が信じられない人
 - 八、笑わない人
- 私が一番心配することは、折角長生きしてもボケてしまつて周囲の者に迷惑をかけることで、それでは、生きている意味がないことになるので、何とかボケにだけはなりたくないと念じています。
- 私はボケ対策の一つとして将棋をしています。
- ボケになる人ならない人の要素の中にも将棋を楽しむことよつてボケを防止できるものがあるのではないのでしょうか。
- 昭和五九年四月一日発行したO・B将棋倶楽部は松山周辺在住者三二名で「ともがき荘」を道場として活用すると共に三月に一回競技会を開催しています。
- 楽しい人生を過ごす一助とボケ防止に役立つ

てるため倶楽部の一員として一緒に頭の体操をしてみませんか。

偉大な金字塔

―泉さんの「電信電話と共に」―

畑野節夫(松山)

このほど、私の恩師でもあられる泉さんのご著作「電信電話と共に」(上巻)を読ませていただいた。「文は人なり」といわれるが、事実に基づいた飾り気のない内容だけに、迫真力にも富み、長いものに巻かれぬ著者のお人柄もにじみ出ていて、さわやかな読後感を覚えた。

泉さんは『みずから』の生いたちから筆を起し、小学校(六年)卒業と同時に電報配達として就職。すずんで他人の仕事を手伝う中で次々と仕事を覚え、かたわら独学を続けていく。念願の通信講習所への受験の道を拓いてくれた『母』の恩愛にふれ、その時「母の頭から後光がさしているように感じ」たと述べている。その後「朋友」を得、よき「先生」や「先輩」にめぐりあい心に残る感化を受けたことにふれている。

通信講習所の教官当時には「よき後輩」づくりのために手づくりの教科書・教材の多くを率先して執筆するなど、みずみずしい使命感・ぬくもりを感じさせる。とりわけ、昭和二十年七月二十六日の空襲で、手塩にかけた松山通信講習所(寮)に火の手がひろがり、危険が迫る中、適確な判断と指示、迅速な対処によつて、何百人といいた生徒の中から一名の死傷者も出さずに、この災難を乗りこえた

くだりがある。そしてそのかげに「若しや逃げおくれた生徒がいては」と防空壕を点検してまわるあたり、広瀬中佐の故事・心意気がほうふつとして、一きわ感動を覚えた。そして最後に自身が退避する際は、明日からの授業に欠かせない電鍵と音響機を両手に持ち、貯金通帳や重要書類が入っている鞆はその場に見捨てていく。その冷静・沈着さとプロ意識の真髓とでもいったものには頭が下がった。何はともあれこの著書は、泉さんならではの「電信電話事業小史」であり、「偉大な金字塔」とよぶにふさわしいものだと思う。一日も早い下巻の発行が待たれるところである。



投稿規定

- 一 会員消息 四〇〇字以内
 - 二 短歌、俳句、川柳 五首又は五句以内
 - 三 随筆、随想 六〇〇字以内
- 原稿締切 二月一〇日
- 原稿の取扱についてはお任せねがいます。

電友会四国連合会会報 第四九号

昭和六〇年一月一日発行

編集発行 電友会四国連合会

事務局

松山市一番町四丁目(二七九〇)

四国電気通信局内

電話(〇八九九)三六一二〇二三

印刷 四国電話印刷株式会社

テレホン



みんなの暮らしをよりよく
オレンジライン



よろしく、



ちょっと未来を感じさせるプッシュホンハウディシリーズ。
フレッシュなデザインと豊富な機能を備えた4タイプ6機種からお選びください。
詳しくは、お近くの電話局へ

かわいいハンディサイズ
ミニタイプ
月々の使用料 650円



ひとさくコンパクトな壁掛型
ウォールタイプ
月々の使用料 750円



楽しい会話がグーンと広がる
ワイドタイプ
月々の使用料 750円



シンプルでスマート
スリムタイプ
月々の使用料 750円



時計がついてうれしさアップ
スリムタイプ
(通話時間がわかる時計付)
月々の使用料 850円



メロディが流れて機能充実
スリムタイプ
(通話時間がわかる時計・保留音付)
月々の使用料 900円



電電公社